Ｒ８ 年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	地歴・地理探究（普・理）	単位数	2	担当者	髙橋

１、教科書・副教材

新詳地理探究（帝国書院）　新詳高等地図 最新版（帝国書院）
新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）　サクシード地理 2025（啓隆社）

２、科目の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月	自然環境（地形）	世界の地形について理解する。地形が人々の生活にどのような影響を与えているか理解する。	３５	既習範囲
	５月	自然環境（気候区分）	世界の気候について理解する。気候がどのような要因によって生じているかを理解する。		
	６月	日本の自然環境	日本の地形・気候について理解する。日本で起こる災害とその対策について考察する。		
	７月 ８月	地球環境問題	地球環境問題について理解する。自然環境と人間生活の関わりから、持続可能な地球環境の開発について考察する。		既習範囲
	９月	農林水産業	農林水産業の特徴を理解する。農林水産業がどのような条件で発達の過程を理解する。		
後期	10 月	資源・エネルギー	エネルギー・鉱山資源の分布や特徴を理解する。資源・エネルギー利用に関する問題を考察する。	３５	既習範囲
	11 月	工業	工業の種類と発達過程の理解を通し、現代世界の工業の現状と課題を考察する。		
	12 月	交通・通信	交通機関の特徴や変化を理解する。高度情報化社会の課題について捉える。		
	1 月	貿易・観光	現代の貿易の特徴を捉える。日本の貿易の特徴と課題を理解する。		既習範囲
	2 月	人口	人口の推移と分布について理解する。人口増減の要因と対策について考察する。		
	3 月	村落と都市	集落の特徴と変容を理解する。都市の機能や地域構造を理解する。		

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	地理に関わる諸事情について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求・解決しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	地理に関心をもち、意欲的に課題を追求する態度があるか。	

５、学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考に、授業時間内での理解を意識すること。ひとつの事象に囚われず、体系的に内容を理解すること。課題や考査を通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	地歴・日本史探究（普・理）	単位数	2	担当者	菊池

１、教科書・副教材

詳説日本史 日本史探求(山川出版)、新詳日本史（浜島書店）

２、科目の目標

わが国の歴史について中世までを中心に広い視野に立って総合的に学習、考察することを通じて、わが国の理解と歴史的思考力を養い、3 年次の学習とあわせて国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月	日本文化のあけぼの	文化のはじまり 農耕社会の成立	３５	既習範囲
	５月	古墳とヤマト政権	古墳文化の展開 飛鳥の朝廷		
	６月	律令国家の形成	律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容		既習範囲
	７月 ８月	貴族政治の展開	摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士		
	９月	院政と武士の躍進	院政の始まり 院政と平氏政権		
後期	10 月	武家政権の成立	鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	３５	既習範囲
	11 月	武家社会の成長	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化		
	12 月	近世の幕開け	戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化		既習範囲
	１月 ２月 ３月	幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化		

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	
主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。	

５、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。

日々、世界の情勢からその成り立ちや歴史について興味関心を持とう。

Ｒ８ 年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	世界史探究（普・理）	単位数	2	担当者	今井

１、教科書・副教材

世界史探究　（実教出版）
最新世界史図説タペストリー（帝国書院）

２、科目の目標

地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	古代文明 （農耕と牧畜、オリエント文明、インダス文明、中国文明） 東アジアと中央ユーラシア （春秋戦国時代～胡漢融合帝国） 南アジアと東南アジア （インド古典文化、古代東南アジア）	オリエント文明，インダス文明，中華文明などの古代文明の歴史的特質に関する基本的な知識を，複数の史・資料を活用し十分に理解できる 秦・漢と遊牧国家，隋・唐と近隣諸国の動向など東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質に関する基本的な知識を，複数の史・資料を活用し十分に理解できる。 仏教の成立とヒンドゥー教，南アジアと東南アジアの諸国家の展開など，南アジアと東南アジアの歴史的特質に関する基本的な知識を，複数の史・資料を活用し十分に理解できる。	３５	既習範囲 既習範囲
後期	10 月 11 月 12 月 1 月 2 月 3 月	西アジアと地中海周辺 （オリエントの統一、ギリシア文明、ヘレニズム時代、ローマ帝国、西アジアの国々と諸宗教） 西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成 （ビザンツ帝国とギリシア正教圏、ラテン＝カトリック圏の形成と展開、イスラーム圏の成立） イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 （イスラーム圏の多極化と展開、ラテン＝カトリック圏の拡大、ラテン＝カトリック圏の動揺と秩序の変容）	西アジアと地中海周辺の諸国家の展開など，西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する基本的な知識を，複数の史・資料を活用し十分に理解できる。 キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成など，西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの歴史的特質に関する基本的な知識を，複数の史・資料を活用し十分に理解できる。 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開など，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する基本的な知識を，複数の史・資料を活用し十分に理解できる。	３５	既習範囲 既習範囲

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	歴史的諸事象の来歴や変化に着目して、人類の歴史を理解できる	定期考査や授業内レポートや課題レポートを通して評価を行う。
思考・判断・表現	歴史的諸事象の来歴や変化に着目して，主題を設定し，身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し，表現している	授業内レポートや課題レポートの内容や、GW の取り組み内容を主に通して評価を行う。
主体的に学習に取り組む態度	現在と異なる過去や現在につながる過去にふれ，世界史学習の意味や意義について，主体的に理解を深めようとしている。	授業出席数や授業に向かう姿勢（居眠り、スマホ、内職をしない）を通して、評価を行う。

５、学習にあたっての注意とアドバイス

授業プリントやノートをしっかりとり、授業内容をよく理解すること。また、なるべく授業時間内でその日の授業内容を理解できるように、主体的に授業に取り組むこと。定期考査の度に自分の理解度を確認し、やりっぱなしにせずに必ずやり直しをして理解を深めること。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	公民・公共（普・理）	単位数	2	担当者	福島

１、教科書・副教材

詳述　公共（実教）　最新公共資料集 2026（第一学習社）

２、科目の目標

（１）現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念とともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける
（２）現実社会の諸課題の解決に向けて，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う
（３）よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	第１章社会を作る私たち １．生涯における青年期の意義 ２．青年期と自己形成の課題 ３．キャリアと社会参加 ４．日本の伝統・文化と私たち 第２章人間としてよく生きる １．ギリシアの思想 ２．宗教の教え ３．人間の尊重 ４．人間の自由と尊厳 ５．個人と社会 ６．主体性の確立 ７．他者の尊重 ８．公正な社会 第３章社会とは何か １．人間の尊厳と平等 ２．自由・権利と責任・義務	・自らの体験などを振り返ることを通して，自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・人間は，個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに，対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることについて理解させる。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。	35	既習範囲 既習範囲
後期	10 月 11 月 12 月 1 月 2 月 3 月	第４章民主国家における基本原理 １．人権保障の発展と民主政治の成立 ２．国民主権と民主政治の発展 第１章日本国憲法の基本的性格 １．日本国憲法の成立 ２．平和主義とわが国の安全 ３．基本的人権の保障 ４．人権の広がり 第２章日本の政治機構と政治参加 １．政治機構と国民生活 ２．人権保障と裁判所 ３．地方自治 ４．選挙と政党 ５．政治参加と世論	・個人の尊重，民主主義，法の支配など，公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて多面的･多角的に考察し，表現させる。 ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題をから権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解させる。 ・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにする ・政治参加と公正な世論の形成，地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することを理解させる。	35	既習範囲 既習範囲

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	現代の諸課題を正確に捉え，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についているか	定期試験、授業プリントの取り組み、資料読解などを総合して評価する。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力が身についているか	定期試験、授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況などを総合して評価する。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度があるか	授業プリントの取り組み、授業への取り組み状況などを総合して評価する。

５、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。

日々、自分と社会の関係性について興味関心を持とう。

Ｒ８　年度　学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	公民・公共(森・イ)	単位数	2	担当者	福島・今井

１、教科書・副教材

公共　新訂版（実教出版）ライブ！2026 公共（帝国書院）

２、科目の目標

①現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念とともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける
②現実社会の諸課題の解決に向けて，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う
③ よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	第１編　１章社会を作る私たち 第２編　２章人間としてよく生きる 第１編　３章他者と共に生きる 第１編　４章民主社会の倫理	青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき，社会に参画する自立した主体としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結び付く，みずからのキャリア形成ついて理解させる。 私たちが生きる社会を形成する伝統や文化，宗教，古来の日本人の考え方などへの理解に基づき，私たちはお互いの立場を理解し合う社会的な存在であることについて自分の意見を表現することを通じてみずからの価値観や他者の価値観，それらを形成する背景や要因ついて理解させる	35	既習範囲
後期	10 月 11 月 12 月 １月 ２月 ３月	第１編　５章民主国家における基本原理 第２編　１章日本国憲法の基本的性格 第２編　２章日本の政治機構と政治参加	公共的な空間における基本原理としての日本国憲法の考え方の理解に基づき，個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定等の大切さ，公共的な空間に生じる課題を探究することの大切さ等について理解させる	35	既習範囲

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	現代の諸課題を正確に捉え，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についているか	定期試験、授業プリントの取り組み、資料読解などを総合して評価する。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力が身についているか	定期試験、授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況などを総合して評価する。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度があるか	授業プリントの取り組み、授業への取り組み状況などを総合して評価する。

５、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎・基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。日々、自分と社会の関係性について興味関心を持とう。